

# 麦作ごよみ

月	11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中				
栽培管理	土づくり(PHの調整) 排水溝の整備 排水溝の整備 溝に水が溜まると、 土はとれない 畦溝は深く、 幅は15cm程度 排水溝へつなぐ						麦ふみ			麦ふみ			追肥・土入れ			麦ふみ			大麦2回目追肥			小土入れ		排水対策		適期刈取 水分25%以下	

生育	播種期	出芽	分けつ開始期・分けつ期・幼穂形成期	節間伸長期	出穂期・開花期	登熟期	収穫期
----	-----	----	-------------------	-------	---------	-----	-----

### 病害虫防除

種子消毒  
播種後の除草剤散布

品種特性  
はるさやか 11/25播種  
チクゴイズミ 11/20播種

品種名	出穂期	成熟期	稈長	耐倒伏性
はるさやか	4月5日	5月19日	87	やや強
チクゴイズミ	4月12日	6月1日	88	やや強

生育期の除草剤散布

多発しています注意!

ヤエムグラ カラスノエンドウ アメリカフウロ スズメノテッポウ トゲミキツネノボタン

1回目 2回目  
赤かび病 防除  
網斑病 防除

農業飛散に注意しましょう

## 1.播種前のほ場準備

- ① 麦は酸性土壌を嫌います。適正なpHは、6.0～6.5です。特に大麦はpH5.5以下で生育障害が発生します。
- ② 播種前に必ず土壌診断を実施し、必要に応じてミネラルGや石灰等の土壌改良剤を施用する。
- ③ 地力維持のため稲ワラの鋤込、鶏糞、牛糞堆肥施用に努める。
- ④ 麦、大豆の連作ほ場では、ようりん等のリン酸肥料の積極的な投入を図りましょう。(粒状ようりん10kg/10a)
- ⑤ 耕土を深くし、根群域の拡大を図る。
- ⑥ 大麦で前年、ホウ素欠乏による不稔が発生したほ場ではFTE(4kg/10a)を施用する。

## 2.排水対策

麦は湿害を受けやすいため、排水対策を徹底しましょう!

- ① 弾丸暗さを必ず行い、田の周囲には排水溝を作る。
- ② 畦溝と田溝の連結と排水溝の整備を徹底し、ほ場の水がただちに流れ出るようにしておく。
- ③ 大麦は特に湿害を受けやすいため、排水良好なほ場を選び、排水対策を徹底する。

## 3.播種期と播種量 ~適期播種に努めましょう!!~

品種名	11月15~20日	11月20~25日	11月25~30日	12月1~10日
はるさやか	-	5~6kg	6~7kg	8~10kg
チクゴイズミ	-	5~6kg	6~7kg	(12月1~5日) 8~9kg

※麦の播種適期は、はるさやか11月25日~12月5日、チクゴイズミ11月20日~30日です。  
※播種深度は3cm程度とし、極端な浅播きや深播きはしない。  
※全面全層播は、3kg程度播種量を増加し、播種後必ず畦立てを行う。

## 4.施肥基準

品種名	基肥	1月下旬~2月上旬		2月中下旬		成分値(kg) (N-P-K)
		1回目追肥	2回目追肥	-	-	
はるさやか	ベスト化成 444 40kg (14-14-14)	NK2号 20kg (16-0-16)	NK2号 10kg (16-0-16)	-	-	(10.4-5.6-10.4)
チクゴイズミ		NK2号 25kg (16-0-16)	NK2号 15kg (16-0-16)	硫安 10kg (21-0-0) 又は 尿素 5kg (46-0-0)	-	(14.1-5.6-12.0) (14.3-5.6-12.0)

### 追肥一発肥料使用の場合

品種名	基肥	1月中旬~2月上旬		3月上旬		4月上旬		成分値(kg) (N-P-K)
		追肥	穂肥	穂肥	穂前期追肥	-	-	
はるさやか	ベスト化成 444 40kg (14-14-14)	麦追肥一発2号 20kg (24-0-5)	-	-	-	-	-	(10.4-5.6-6.6)
チクゴイズミ		グッドIB506 30kg (25-0-6)	-	-	-	-	-	(13.1-5.6-7.4)

- 大豆跡では、基肥を基準量より減らし20~30kg/10a程度にする。
- 分施の場合、穂肥および2回目追肥は生育状態に応じて時期及び量を定める。
- 追肥後は土入れをすることで肥料の効果が速やかに出るため、施用後必ず土入れを行う。

## 5.病害虫対策

### ○種子対策

	対象病害虫	農薬名	処理方法 (種子重量の)	使用量
麦類	斑葉病 裸黒穂病 なまぐさ黒穂病 網斑病	トリフミン水和剤	0.5%種子粉衣	種子10kgに50g
小麦	ヤギシロトビムシ	アドマイヤー水和剤	0.15%種子粉衣	種子10kgに15g

### ○赤かび病防除

	薬剤名	希釈倍率	散布量	散布時期
大麦	ワークアップフロアブル	2,000倍~3,000倍	60~150ℓ	1回目 出穂期から12~14日後(4月中下旬) 2回目 第1回散布の1週間後
小麦	ワークアップフロアブル	2,000倍~3,000倍	60~150ℓ	1回目 開花期(4月中旬) 2回目 第1回散布の1週間後

※大麦で網斑病が多発しているほ場では、出穂期頃にチルト剤を1,000倍で散布する。

## 6.雑草防除

### ①播種前(雑草が多い場合)

除草剤名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法
ラウンドアップ マックスロード	200~500ml	通常散布 50~100ℓ 少量散布 25~50ℓ	耕起前又は出芽前 (雑草生育期)	雑草茎葉散布 (リベレーターを混用する場合は リベレーターを先に溶かす)
ブリグロックSL	600~1000ml	100~150ℓ	播種前又は播種後出芽前	

### ②播種直後~出芽前

除草剤名	薬量	希釈水量	使用時期	注意事項
ムグレングジャー乳剤	300~600ml	50~100ℓ	播種後~出芽前 (雑草発生前)	●砂壤土・壤土の場合は 葉害が出やすいため、登録の範囲内で薬 量を減らす。 ●砂土では使用しない。
ボクサー	400~500ml	70~100ℓ	播種後~麦2葉期 (雑草発生前~発生始期)	
リベレーターフロアブル	60~80ml	100ℓ	播種後~麦3葉期 (雑草発生前~ イネ科雑草1葉期まで)	
≪上記各薬剤に混用≫ トレファンサイド	200~300ml	100ℓ	播種後出芽前~生育期	

- ミチヤナギやヤエムグラが多いほ場では上記の各薬剤にトレファンサイド乳剤を混用し、散布する。
- 極端な浅播きをすると薬害をおこす恐れがあるので、播種深度が3cmより浅くならないように播種する。(ばら撒きを除く)
- 播種後の土壌が大きくすると土壌表面に均一に散布する事ができないので効果が劣る。
- 処理直後に降雨が予想される場合は、薬害をおこす恐れがあるので降雨をさけて処理する。

### ③生育期(1月以降雑草の発生が多い場合、以下の防除を行う)

除草剤名	使用時期	薬量	希釈水量	適用雑草						
				スズメノテッポウ	カラスノエンドウ	ノミノフスマ	ヤエムグラ	トゲミキツネノボタン	タデ類	アメリカフウロ
ハーモニーDF	大麦 是種後~節間伸長前	5~10g	100ℓ	○	△	○	○	○	○	○
	小麦 是種後~穂ばらみ期 収穫45日前まで			○	△	○	○	○	○	
MCPソーダ塩	幼穂形成期 収穫45日前まで	200~300g	70~100ℓ	×	○	○	△	○	△	○
バサグラン液剤	大麦 生育期(雑草の3~6葉期) 収穫90日前まで	100~200ml	70~100ℓ	×	○	○	○	○	○	○
	小麦 生育期(雑草の3~6葉期) 収穫45日前まで			×	○	○	○	○	○	○

- 周辺に野菜等、他の作物がある場合はドリフトに注意する。

## 7.麦ふみ・土入れ

### ①麦ふみ

- 根張りをよくし、生育をそろえるので必ず行う。
- 本葉4葉展開時から始め、節間伸長開始前までの間に2~3回実施する。
- 早播、暖冬年の場合には、効果が高いので出来る限り多く実施する。

### ②土入れ

- 乾燥が続いて土壌が乾き、茎葉の水分付着の少ない日の午後に行う。
- 土入れは麦ふみ前に行い、麦ふみ直後には実施しない。
- 作溝を兼ねて、1月上旬~3月上旬に2~3回行う。
- 雑草防除、倒伏防止、過繁茂の抑制や湿害防止の効果がある。



3月上旬までに行い、暖冬の年ほど徹底する。

## 8.収穫

### ①大麦

- 収穫適期は、穀粒水分25%以下となった時期で、ほ場全体の穂重が80%以上曲った頃である。
- 穀皮が薄いので、剥皮が生じないように脱穀、調整に留意する。

### ②小麦

- 収穫適期は、手のひらで容易に包皮がはずれ、穀粒が爪でやっとなぐれて、割れた断面が白っぽい粒状になった時である。(穀粒水分30%以下)

### 適正な施肥と土づくりによる収量と品質の向上を!!

#### ○小麦の穂前期追肥について

1等Aランクを目指すため、タンパク質含有量を上げましょう。  
穂前期追肥を行うことで小麦のタンパク質含有量が向上します。

#### ※注意点

- ①時期がずれるとタンパク質の向上効果が劣ることがあるので、適期に施肥を行ってください。
- ②雑草が多いほ場では肥料の効果が劣るので、ほ場管理を徹底して下さい。

タンパク質含有率目標値  
チクゴイズミ 10%以上